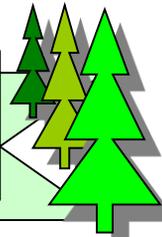




街路樹



道徳科の授業改善の視点と実践例紹介

センターにおける発達検査の意義

総合教育センターでは、「道徳教育研修」と「道徳科実践講座」を開催しています。「道徳教育研修」では各学校での道徳教育の推進について、「道徳科実践講座」では道徳科の授業の実際についての講義・演習を行いました。

「道徳科実践講座」においては、令和3年度調査研究委員会道徳部委員の授業実践動画を基に研修を進めました。

～「考える道徳」「議論する道徳」にするために～

授業実践(小学校1年)

主題名: 自分よさ 教材名: 「ええところ」

ねらい: 自分の特徴に気づき、長所を大切にしようとする心情を育てる。

《導入の工夫》

絵本を用い、読み聞かせをすることで、児童が内容を理解し登場人物に自己を投影できる。

発問: 「自分によいところはある? ない?」



《展開の工夫》

ペア又は全体で役割演技を行うことで、児童が登場人物の気持ちを考えることができる。

発問: 「あいちゃんの良いところはどんなところ?」

《終末の工夫》

児童が自分ごととして考えるために、「よいところカード」(よいと思った行いを記入するカード)をもとに、自分のよいところをワークシートに記入する。

発問: 「自分や友達の良いところを見つけよう」

小学校1年生という発達段階で、自分のことを客観的に考えることは難しいかもしれません。しかし、役割演技や「よいところカード」などの工夫によって、児童自身が自分の思いに気付くことができました。子どもの発達段階を踏まえた、教師のコーディネートも大事であることが分かる授業でした。

※ 「道徳科実践講座」で使用した授業動画は、Google Classroom (令和3年度 調査研究委員会) にあります。視聴方法、クラスコードは「令和3年度いわき市総合教育センター調査研究委員会の授業動画等の活用について(通知)」(3教セ号外令和4年1月14日)でお知らせしておりますのでご利用ください。

【問題】 Kさんは最近落ち着きがなく、忘れ物も多く授業中は全くノートを取りません。学校では発達検査を受けてもらおうと考えていますが、果たして検査をすることは、Kさんの行動への解決につながるでしょうか。

発達検査は、病院等での医師の診察に基づき心理士が行うのが一般的です。総合教育センター(以下、「センター」)でも発達検査を受け付けていますが、最近、「検査を受けるよう学校から言われたのですが…」という相談が多く寄せられます。その場合、センターではまず保護者の話を丁寧に聴き、検査が適合するケースかを精査し実施の可否を決めます。では、病院ではなくセンターで発達検査を実施する意義はどこにあるのでしょうか。

センターでは、主にWISC(ウィスク)IVの検査を用います。WISCIVでは、学習に関わる4つの認知発達の特性(言語理解、知覚推理、短期記憶、処理速度)を知ることができます。検査後は、保護者と先生に来所いただき、結果を手がかりに子どもが学習に向かいやすい環境(教材、時間、場所、関わり方等)を話し合います。その際に、「本人のわがままだ」という周囲の捉えがあると何も変わりません。例えば、漢字の学習では、これまで「嫌がらずに書けるまで繰り返し練習する」としていたのを、「すべてなぞり書きにして、単語には意味の絵カードを添える」など、特性に応じた方策を具体的に検討することが大切です。これは、子どもの行動を直接見ている学校(先生)が話し合いに加わるからこそできることで、検査結果を生かし子どもへの関わり方を工夫して変えることこそが、解決のポイントとなります。

Kさんは、なぜ落ち着かないのか。なぜ忘れ物が多いのか。そうせざるを得ない原因は何か。検査をする前にまず、本人の気持ちや考えをさらに掘り下げて聴き、行動を理解していくことが、解決の第一歩となります。



教育課題改善講座より



9月21日(水)に行われた「教育課題改善講座」では、キャリア教育について研修を深めました。キャリア教育について「職業体験」「進路指導」「小学校には関係ない」というイメージをもちやすくなりますが、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」ことをねらいとしています。子どもたちが、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できるように支援をしていくことが大切になります。

研修では、架空の学校を想定し、児童生徒の現状や身に付けさせたい力を踏まえた



キャリア教育全体計画を作成する演習を行いました。また、児童生徒に身に付けさせたい力を育むために、どのような教育活動、事前・事後活動及び直前・直後学習を展開することが望ましいのかについてグループに分かれて考えました。研修者からは、「生徒の実態や地域性などを考えながら進めると、いろいろな考えや指導法が出てくると感じた。学校内で意見を出し合いながらよい学校づくりをしていきたい」「今学んでいることが児童の将来の社会的・職業的自立に結びつけていけるように支援していきたい」という感想が挙げられました。

次年度の教育課程編成に向けた一助になればと思います。

キャリア教育って?



職場体験?



進路指導?